

第5回
十湖賞
俳句大会

生きとし生けるもの
その命をいつくしむ。

身近な

生きもの

— 入選句集 —

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

平成25年2月発行

〈発行元〉 浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

〈事務局〉 浜松市東区役所区振興課内

浜松市東区流通元町20-3

TEL053-424-0115 FAX053-424-0131

Eメール e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

十湖と東区俳句の里づくりについて

松島十湖は江戸の末期、現在の浜松市東区豊西町に生まれた俳人にして政治家。さらには地域貢献に努めた篤志家です。生涯に創られた句は七千とも言われ、全国各地に多くの門人がいたとされます。

東区ではこうした十湖の遺徳を称えとともに「土の詩人」として生きた十湖の心を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催いたしております。

今でも、東区内には句碑群が残存しており、同時にまた多くの俳人をも輩出し、俳句の里としての側面を垣間見ることができます。

東区及び実行委員会では、このような背景のもと、「浜松市東区俳句の里づくり事業」を行っております。



目次

ごあいさつ	2・3
十湖大賞	4
十湖賞	5
東区長賞 県教育長賞 市教育長賞	6
特選	7
佳作	8・9
奨励賞	10 13

第五回「十湖賞」俳句大会 入選句集

平成二十五年二月十日(日)
於 浜松市総合産業展示館北館四階一号ホール

第5回「十湖賞」俳句大会 投句実績

一般の部		高校生の部		中学生の部		小学生の部		全 体		一般の部・地域別	
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	地域	投句数
690	2,253	1,222	3,226	2,433	5,701	2,214	5,992	6,559	17,172	市内	1,278
										県内(浜松市)	241
										県外	734
										合計	2,253



ごあいさつ



浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

委員長 松島 知次

「十湖賞」俳句大会は第5回という節目の大会を迎えました。応募総数は6559人、1万7172句と第4回を556人、3152句上回り、節目にふさわしい大会となりました。投句された方々には感謝申し上げますとともに、主催者として大会規模の拡大に大きな喜びを感じております。

第5回では、これまでの大会を通じて初めて小学生が十湖大賞に輝きました。浜松市東区俳句の里づくり事業では、平成21年度から俳句大会のほかにも、地域の俳句愛好家の方々を講師に迎え、区内の学校で俳句講座を実施してきました。今回の受賞は講師の方々や学校での熱意あるご指導の賜物であるとともに、東区の子どもたちに俳句文化が根付いてきているあかしであると実感しております。

また、一般の部では、北は北海道、南は沖縄県まで41都道府県から応募いただき、この大会も全国的な広がりを見せております。今後も皆様に愛される大会となりますよう、事業を進めてまいります。終わりに、入選された皆様への感謝とお祝いを申し上げます。



浜松市東区長 玉木 利幸

浜松市東区は、日本の中心に位置することから古くは東海道や姫街道など、そして現在は東名高速道路、国道1号などが通る交通の要衝として発展してまいりました。街道や徳川家康公ゆかりの史跡など歴史的資源も多数あります。また、古くから俳句も盛んで、芭蕉ゆかりの地元の俳人「松島十湖」の教えにより、区内におよそ400もの句碑が残されている土地柄です。

こうしたことから、本区では平成19年度に「浜松市東区俳句の里づくり事業」を立ち上げ、柱となる「十湖賞」俳句大会は、今回節目となる第5回を迎えました。本年度からは、俳句講座の対象を高校にまで広げるなど、さらなる事業の充実を図ってまいりました。

「身近な生きもの」を句題とした第5回大会では、第4回を大きく上回る1万7172句ものご応募をいただき、非常に喜ばしく思っております。

結びに、募集句をご選考いただきました選者の方々には、心から敬意を表しますとともに、ご応募いただいた方々をはじめ、この大会に携わっていただいた関係の皆様へ深く感謝を申し上げ、ご挨拶いたします。

十湖大賞

【小学生の部】

紋白蝶色を見つけにひらひらり

与進小学校 六年 伊藤 未侑

【評】 一匹の紋白蝶が、自分に欠けている色というものを求めて飛んでいるという、一篇の童話のよ
うな句。発想に加え「ひらひらり」の音の表現も楽しいのですが、すぐれた童話が悲しみを含
んでいるのにも似て、色を持たない紋白蝶の哀れも感じさせます。(高柳克弘)

十湖賞

【一般の部】

青蜥蜴鋼のほひ残りしけり

浜松市南区 戸塚 きる

【評】 「青蜥蜴」の光沢のある青緑色は、何とも美しい。その艶っぽい蜥蜴を見ていて彼女の美意識は、ふと鋼(刀剣や鋼板等)
の艶を想像したのだろう。しかも「鋼のほひ」までも。虚実の間を往来する精神あればこそ成った句。(九鬼あきあ)

【高校生の部】

昨日より今日より明日きりぎりす

二俣高校 三年 鈴木 佑麻

【評】 ちよんぎーす、あるいはぎーちよんと、郷愁を誘う「きりぎりす」の鳴き声。その声に作者は耳を澄ませ、そして自
身を投影。格助詞「より」を二つ重ねて巧みなリズムを醸し出して決意を新たにしている。(世瀬節子)

【中学生の部】

出迎える犬のぬくもり秋の暮れ

天竜中学校 一年 伊藤 謙佑

【評】 私達に最も身近な犬は人々を和ませてくれる。愛犬と呼ばれる理由がそこにある。出迎えてくれる犬が飛びついて抱か
れたがる。夏とは違って秋の夕暮れともなると、犬の温もりがひしひしと伝わって来てうれしい。(鈴木裕之)

東区長賞

【一般の部】 出雲大入の成くも青野の暮し
【小学生の部】 色を見つけにひらひらり

東京都杉並区 長岡 帰山



県教育長賞

【高校生の部】 ひぐらしに囲まれ暮らす祖母の家
【中学生の部】 田圃にはおたまじゃくしの自由有り
【小学生の部】 星が地に落ちてきたのかてんとうむし

二俣高校 三年 稲葉麻由加

市教育長賞

【中学生の部】 宗一郎寅楠の街小鳥来る
【小学生の部】 子は学校秋の金魚は尾をゆらし

中郡中学校 三年 藤本 瑞希

【中学生の部】 日溜りで尾を振る子猫祖母の横
【小学生の部】 せせらぎにキラキラ光るメダカの背
ビー玉のかがやきみたいとんぼの目

笠井小学校 六年 平川 温士

特選

【一般の部】

宗一郎寅楠の街小鳥来る

浜松市中区

吉川摩里子

子は学校秋の金魚は尾をゆらし

東京都杉並区

神山 妙子

【高校生の部】

蓑虫に生きる辛さを語る僕

浜松東高校 一年

池田 健治

炎天や白き小鳥に水一寸

浜松南高校 三年

荒石 康平



【中学生の部】

日溜りで尾を振る子猫祖母の横

笠井小学校 三年

鈴木穂乃香

蟋蟀の声を数えて夜すこす

与進中学校 二年

原山 茂矢

【小学生の部】

せせらぎにキラキラ光るメダカの背

積志小学校 五年

川島 梨渚

ビー玉のかがやきみたいとんぼの目

積志小学校 五年

牧野 文音



佳作

〔一般の部〕

新婚や秋刀魚の腸を抜いてゐる

東京都杉並区
伊藤 実那

でで虫のつるめばきいと鳴きにけり

茨城県筑西市
大森 薫

かはるがはる猫の子を抱くらンドセル

横浜市港北区
竹澤 聡

犬鳴いて曳馬野萩をこぼしけり

浜松市中区
鈴木 文子

遠州の空引き締むる鵲の声

浜松市浜北区
松本 つね

田一枚めぐり上げたる稲雀

滋賀県草津市
井上 次雄

〔高校生の部〕

水馬水に映った空を飛ぶ

浜松学芸高校 二年
外山 豪

田んぼから水鶏飛びたち水光る

浜松東高校 一年
北島 絃規

鈴虫の求愛耳に眠る夜

浜松東高校 一年
渡邊佳奈子

君と見た螢の光恋心

二俣高校 二年
鈴木 美波

ザリガニが真夏の川に色を足す

二俣高校 一年
藤森 美帆

黒猫が一匹泣いた月の夜

二俣高校 二年
鈴木 龍彦



〔中学生の部〕

木漏れ日で疎らに光る蟬の羽

積志中学校 三年
須田 滉生

キリギリス一步あるくと草の音

中部中学校
丸山 美穂

寝転がり麦茶片手に犬と僕

与進中学校 三年
伊藤 裕斗

鈴虫と共に夜を越す受験生

静大付属松原中学校 三年
岩井 優佳

バッタたちとんで高さを競ってる

笠井中学校 三年
名倉 拓海

芋虫にあだ名をつけて飼った日々

与進中学校 一年
尾崎 竜大



〔小学生の部〕

冬の夜ひぎにねこ乗せ本を読む

和国小学校 六年
加藤 璃緒

いい気分トンボがわたしにチュッとした

鴨江小学校 二年
鈴木 愛唯

雨がえるきみの体はえのぐだよ

豊西小学校 六年
塩澤 祥大

蛇がいるいろんな場所ではうけんだ

大瀬小学校 四年
牧田 侑真

しかの子がふんばりふんばり立っている

大瀬小学校 四年
大畑 慧眞

ツバメの子別れを言わずとびたつた

豊西小学校 六年
中野 幸

奨励賞

〔一般の部〕

残る虫四百年の野面積

浜松市中区
宮本 みつ

犬置いて嫁に行く子や今朝の秋

浜松市浜北区
太田千代子

かなかなや手のひら二つ淋しいぞ

岡智部森町
友田喜美子

水馬大空に乗り滑りゆく

浜松市西區
福岡 菊雄

兜虫やすやすと籠脱け出せり

東京都国分寺市
菅原 晋也

ヒロシマもフクシマも鳥度るなり

磐田市
掛井 広通

熱帯魚部屋に水音生まれけり

磐田市
磯部 節子

糞虫や家のローンはあと二年

神戸市東灘区
岸野 孝彦

小児科の床に散らばる木の实独楽

大阪府高石市
木本 康雄

をんどりもめんどりも鳴き秋彼岸

浜松市東區
石橋 朝子

滑走の白鳥湖をしたたらす

東京都杉並區
長岡 隆司

初明り樋をすずめの歩く音

東京都中央区
西出真一郎

塀歩く猫美しき月今宵

山口県下関市
木嶋 政治

真つ先に犬を花野へ放ちけり

浜松市東區
鈴木 浩子

ななふしの逃げ足はやし秋時雨

浜松市中區
原 百合子

鸚哥にも意志のありけり天高し

浜松市東區
成田 慶子

〔高校生の部〕

水馬や恋の波紋の次々と

浜松学芸高校 二年
内田 巨

水田にわがもの顔の鷺一羽

浜松日体高校 一年
小澤 風花

秋燕建物の間に家建てる

浜松東高校 一年
山田 賢輔

鮎解禁釣り人たちが一目散

浜松東高校 一年
鈴木 軍

梅雨の顔蝶を見てるとにつこりに

浜松東高校 三年
竹内 結香

父親の怒った目玉錦鯉

浜松東高校 三年
二木 由子

春の空親雀飛ぶ子のために

浜松東高校 三年
赤堀 優

冬の夜犬と一緒にあたたまる

二俣高校 一年
大城 彩音

燕の子自分の夢へ飛んでゆく

二俣高校 三年
黒川 沙織

あゆつかみ川に輝く子の笑顔

二俣高校 一年
片桐 穂香

あかとんぼ夕日の中にまぎれてる

二俣高校 一年
太田 莉那

みの虫ははずかしがりや顔出さず

二俣高校 二年
安岡 美槻

雀の子しっかり守る母の愛

二俣高校 二年
藤原 亜衣

夢をのせてんとう虫が空を飛ぶ

二俣高校 三年
吉田 佳代

雨蛙雨の中でもコンサート

二俣高校 三年
池田 亮太

ヒタヒタと影が這い寄る爬虫類館

掛川工業高校 一年
藤井 晃大

電柱にとまり無言のアブラゼミ

浜松大学 総合高校 四年
成瀬 初音

ヤドカリは家が近くて安心ね

春野高校 二年
谷口 愛実

【中学生の部】

秋蛍夜空を飛ぶと星になる

与進中学校 一年

加納菜々美

縁側で犬と一緒に見る花火

中郡中学校 二年

太田 綾菜

赤とんぼ大空赤にうめていく

笠井中学校 二年

大谷 昌平

紋白蝶届かぬ空へとんでゆけ

与進中学校 一年

中嶋 実緒

雨蛙我が家のドアを守ってる

笠井中学校 三年

下平 蛍

カメたちが花火の音に慌ててる

笠井中学校 二年

澤田 真子

かまきりがかまを振り上げ仁王立ち

積志中学校 二年

倉田 育実

指きりの小指の先に赤とんぼ

天竜中学校 一年

神谷 早咲

蟋蟀は静かな夜の主役かな

天竜中学校 三年

杉浦 莉紗

ひぐらしの声聴きながら宿題す

天竜中学校 三年

神谷 優希

はじめより小さく見える金魚ぼち

積志中学校 一年

池谷美沙希

ぎこちなく巣から飛びだす子燕達

積志中学校 二年

花鳥 拓真

陸上部とんぼと一緒に競走中

積志中学校 一年

渡辺 莉央

蟻の列少しもずれず歩いている

中郡中学校 三年

鈴木 汐梨

わたむしはわたの形になってるか

与進中学校 一年

斉藤 光輝

【小学生の部】

ほたるがねでんきをつけてけすんだよ

豊西小学校 三年

松井 崇飛

くすぐったい手にのつたのはテントウムシ

積志小学校 四年

山田 美優

あめ上がりくもの巣ひかる七色に

和田小学校 六年

岡本 平

今日やっとお玉杓子に足が出た

積志小学校 六年

新堀 晃輔

とんぼたち空に大きな絵をかいた

与進北小学校 六年

平野 真緒

金魚たち赤いドレスでファッションショー

有玉小学校 六年

中島 美咲

あめんぼがにん者のように進んでく

与進小学校 六年

深澤舜一郎

ゆうやけに蜻蛉の羽がかがやいた

与進北小学校 六年

鈴木志於美

くものすでやってみたいなトランポリン

積志小学校 五年

佐田峻太郎

カマキリを見ているつもりが見られてる

中瀬小学校 六年

杉山 萌

ふくろうよ首を回して何探す

積志小学校 六年

高部久瑠実

かなぶんが夜の電気にだいしゅうご

豊西小学校 三年

渥美 陽向

鯛雲猫が窓からのぞいてる

与進小学校 六年

上條 舞

あげはちよう川のほとりで一休み

和田小学校 六年

白井淳之助

小鳥くる青いお空のどまん中

神久呂小学校 二年

川瀬 晶子

夏の蝶青空高く鳥のよう

与進小学校 六年

大須賀純怜

秋の空木の実くわえてりす渡る

積志小学校 六年

濱島 萌絵

タナゴ釣る木かげ見つけていすならべ

積志小学校 五年

生熊 渚

ツバメのす中はむちむちまんいんだ

中郡小学校 五年

鈴木 彰斗

